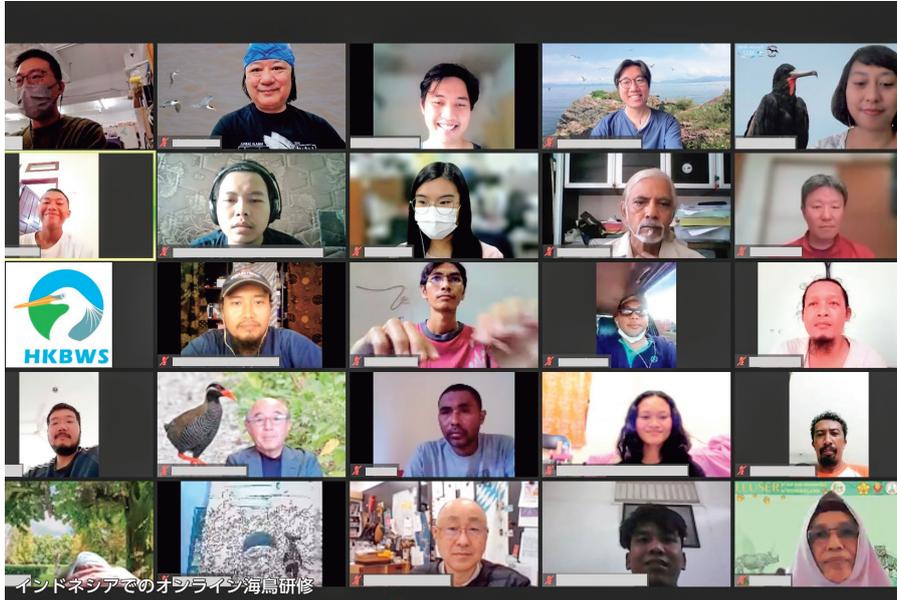


西部太平洋における海鳥の衛星追跡： 渡り鳥で繋げるアジアの海と人々

活動地域  アジア

ひろげる助成
4年目
調査研究

インドネシア海鳥フォーラム	200人
海鳥調査研修コース (2言語・国)	180人
今年度計画の達成度	90%
目標達成度	90%



インドネシアでのオンライン海鳥研修

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍により2020年～2022年にかけて、集会や調査など現地活動が大きく制限され、もしくは実施できなくなった。

■ 工夫した点

インドネシア・フィリピンへ渡航できないため、オンラインで研修会・ワークショップを開催した。対面形式はより好ましいものの、多くの参加者を得られ、コストも低かった。

課題

東南アジアにおいて、海鳥保全に必要な人材を育成し、重要サイトの保全対策を構築、保全の意識啓発を進める。西太平洋で海鳥保全研究者の協力ネットワークを構築する。

目標

アジアの重要サイトを集めた海鳥保全ネットワークが形成される。保全を進めるため、インドネシア、フィリピンなど各国との共同プロジェクトを実施する。

活動内容と成果

新型コロナウイルス禍によって全ての会合及び研修をオンラインに切り替えるを得なかったが、より多くの人々に参加してもらうことが可能となった。インドネシア海鳥フォーラム及び海鳥調査研修コースには計400人以上が登録、参加した。また渡航制限により現地調査を実施できなかったものの、本プロジェクトの現地調査で協力してきた地元大学の大学がこれまでの経験をいかし、ヒガシシナアジサシに関する基礎的な調査を実施した。



オオアジサシと衛星追跡機材 (2020年)

全助成期間の活動を振り返って

東南アジアにおいて、海鳥研究・調査及び保全に係る強力なネットワークを構築するという目標を十分に達成したと考える。唯一の難点は、新型コロナウイルス禍により3年目に予定していた現地調査を実施できなかったことであった。EAAFP事務局が2022年を「アジサシの年」に指定したことは（この指定に係る主要な活動の多くを、本事業の関係者が担う）、本事業がアジアにおいて海鳥保全の確固たる基盤を築いたことの証左である。



現地海洋保護区事務所を訪問 (2020年)

7C, V Ga Building, 532 Castle Peak Road, Lai Chi Kok, Kowloon, Hong Kong
電話：+852 2377 4387
E-mail：hkbws@hkbws.org.hk
HP：https://www.hkbws.org.hk/



今後の展望

本事業のプロジェクトチームは、インドネシア、フィリピンと協力し、引き続きヒガシシナアジサシをはじめとする絶滅危惧種の調査、保全を進める。新型コロナウイルス禍が収束し、本チームをはじめとする関係者がより多くの現地調査と協働を進めるに連れ、西太平洋における海鳥調査と保全の活性化が進むものと確信している。2022年度の「アジサシの年」の活動を通じてアジア諸国への波及効果が期待できる。